

食肉加工の岩田屋フ  
ードグループ（本社  
福岡県、組坂善昭社  
長）は12月1日、大規

模の太陽光発電事業に  
参加すると発表した。  
昨年、宮崎県高原町に  
1万4千坪の用地を取  
得、このほど約3・6  
メガソーラー（モジュ  
ール合計）を出力する  
発電所の建設に着手し  
た。

益源に育て  
ていきたい  
考え。7月  
末にはこれ  
ら大型投資  
に伴い岩田  
屋フード（株）  
（資本金2  
千万円）、  
大鵬インタ  
ーナシヨナ  
ル（同）、  
岩田屋産業  
（株）（150  
0万円）3  
社の資本金

れら既存事業を含む総  
投資額は約12億円で、  
年間約2億円の売電収  
入を見込む。

また新設候補として  
鹿児島県伊佐市に3万  
6千坪の牧場跡地を取  
得済み。同地でも経済  
産業省から同出力約8  
メガソーラーの認可を  
得ているが、現在、九  
州電力に対する事業者  
の申請急増で売電につ  
いての回答は保留中。  
今後、送電網のインフ  
ラが整備され次第、同

地にも由来する伝説（神  
々が暮らした高天原）  
にちなみ

## 「太陽光発電」に参入

### 岩田屋フードグループ

「天照（アマテラス）  
太陽光発電  
所」と命  
名、来年5  
月から20年間、九州電  
力へ売電を開始する。

地でも発電所の建設に  
動く。

をそれぞれ1億円に引  
き上げた。

すでに同社グループ  
では加工場の屋上部な  
どに太陽光パネルを設  
置し、再生エネルギー  
事業を一部で実施して  
いる。今回の案件とこ

同社グループでは今  
後、太陽光発電による  
再エネ事業を主力の食  
肉加工業、不動産賃貸  
業（前期貸収2億4千  
万円）に次ぐ新たな収

政府の電力システム  
改革によると、平成28  
年から家庭や小規模店  
舗が電力会社を自由に  
選択できるようになる  
ほか、平成30年をメド

に電力会社  
の送配電部  
門と発電部  
門を切り離  
す「発送電  
分離」が実  
施される見通し。同社  
グループではこうした  
電力行政の規制緩和の  
流れを見据え、将来的  
に自社グループ内で発  
電した再生エネルギーの販  
売事業も視野に入れて  
いる。



宮崎県高原町に建設中の「天照太陽光発電所」